

**現** 在、町内には78の町内会があり、世帯加入率は78.2%と、全道平均と比べて10%以上も高い加入率となっている。今期、連合町内会の会長を退任した山田國義さんは「白糠町の人たちは、まだまだ町内会の必要性を感じているのだと思います」と話す。

しかし、白糠町内だけで見ると、10年前の世帯加入率は83.3%と、約5%の減少となっている。世帯構成や生活様式の変化などにより、加入率は年々下がっているのが現状だ。また、多くの町内会では、会員の高齢化や役員の担い

手不足などが課題となっている。

山田さんは「若い人がもっと町内会活動に参加してくれたらいいんだけどなあ」と苦笑しく笑う。

「昔はね、“向こう三軒両隣”という言葉がよく使われていて、隣近所との親しい付き合いがあったんだよね。私たちが子どもの頃ね。町内会の原点は、この“向こう三軒両隣”だと思っているんです。都会に行けば、隣に住んでいる人の顔も知らないって聞くけれど、日頃から顔の見える関係性をつくっておくことが大事なのです。たとえば、災害が起きたときは、助け合って避難する。いざという

きに頼れるのは、やはり近くにいる人なんです。ですから、そういう人間関係をつくっておくためにも町内会は絶対に必要なのです」

そう話す山田さんも、元々はそうした活動には関心がなかったという。「私が白糠営林署で働いていたころに、営林署を廃止するという話が出て、当時町長だった千葉清さんが、その矢面に立って反対運動をしてくれました。うれしかったですよ。ずっと何かの形で恩返しをしたいと思っていました。それで営林署を退職してから西茶路町内会の役員をやることにしました。次に副会長をやって、今は会長です。連合町内会の会長もやりました。町への恩返しがいざという時に、町内会の役員をやることにしましたが、ここまで続けることができたのは、皆さんに助けていただいたおかげです。本当にありがとうございます」と感謝しています」

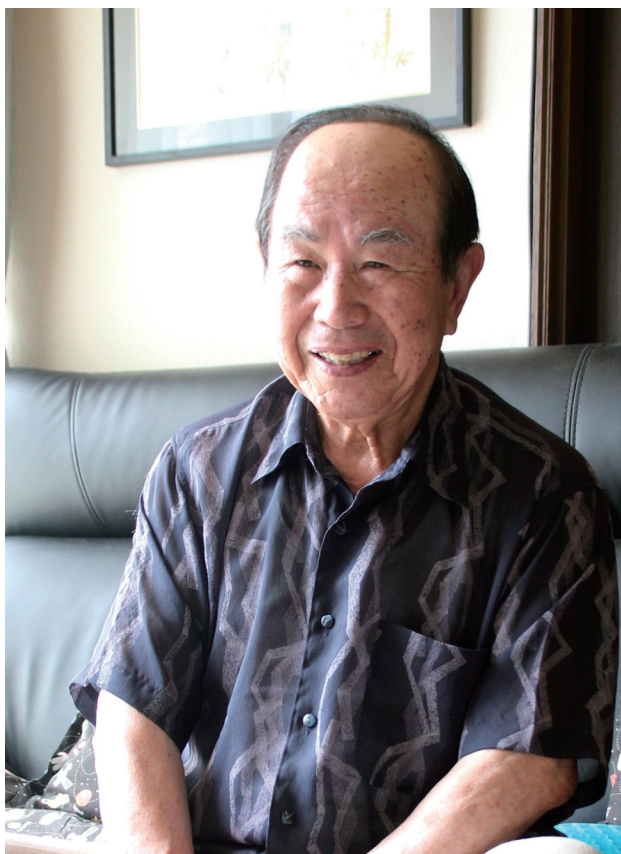
4期8年間、連合町内会の会長を務めた心情と次の目標を聞いた。

「連合町内会の会長を務めて、一つの人間形成といいますか、自分自身の成長につながったと思います。たくさんの人たちとの付き合いができましたし、そうした中で見聞も広がりました。それだけでも十分に意義があったと思います。正直、今は肩が軽くなりました(笑)。最初は本当に驚いたんです。会議が多くてね。そういった会議に出席することがなくなり、ちょっと寂しい気持ちはありますが、そういったことは若い人たちにバトンタッチして、今度は老人会だね(笑)。それと釣り。天気の良い日に海で釣りをするのは最高だよ！人生、有意義に過ごさないとね」

## 山田國義

やまだ くによし

1939年9月3日生まれ。白糠町庶路出身。釧路湖陵高校卒業後、白糠営林署に定年退職まで勤める。2007年から連合町内会の役員を務め、2014年に会長就任。4期8年務めた。1男1女を育て、現在は妻との2人暮らし。趣味はパークゴルフと釣り。



「人間形成というか、自分自身の成長につながったと思います」



5月27日、令和4年度連合町内会定期総会の連合町内会表彰式で表彰状を受け取る山田さん。